

創刊

準備号

毎月 19 日発行

福祉と介護のミニコミ誌

# ふれ〜ず



(画 amor amigo)

## 【トピック】

- 特別寄稿 日常生活圏域の核となる「地域拠点」のあり方
- 連載 心地よい関係性のバランス
- 連載 起業・就労・支援の間で…

# 特別寄稿 日常生活圏域の 核となる 「地域拠点」のあり方

山越孝浩

「地域福祉」コーディネーター  
及び地域拠点の有すべき機能」

介護保険サービス事業所、とりわけ地域密着型サービス事業者は、利用者の「地域での暮らし」を支えるための支援を行ってきた。それはサービスを提供することが目的である支援と一線を画するものである。利用者の自宅や地域での暮らしを支えるために、その人が望む暮らしの支援（自己実現への支援）として「〜したいの実現」を目指した支援を行っている。これは、地域にある資源やこれまで本人

が培ってきた人や物、場所との関係をつなぎ直したり、新たな結び目を作ることで、地域での生活支援を行おうとする視点である。

従来のサービスだけで支えようとすると、サービスをどれだけ利用できるかという傾向が強くなり、事業所に通う回数が増えたり、宿泊の日数も多くなる。しかしながら、利用回数が増えることと自宅や地域での暮らしを実現することとは直接的な関連は薄い。本人は、利用回数の増加を望んでいるのではなく、自宅での生活を望んでいるだけで、かえってサービスを多く利用することで自宅での居場所を失ったり、友人・知人との関係が希薄になるなど、自宅や家族、地域から切り離してしまうことにもなりかねない。一方、家族もいわゆるデマンドとニーズの違いから「毎日利用させてほしい」と要望する場合も、事業所に通うことを求めているわけではなく、自宅で日中見守りをす

ることができないことや、入浴や排せつをうまく介助することができないニーズを「毎日の通い」というデマンドで表現しているだけであって、通うことが目的ではない場合も多い。よって、不必要なサービスが増えれば増えるほど、本人の望む暮らしを阻害する要因となることも理解しておかなければいけない。それは、支える側の多くも「サービス提供」と「支援」をはき違えてしまい、サービスを提供することのみが目的となってしまう、本人が持っている「力」を奪ったり、支援の本質を見失ってしまうからである。地域拠点や地域福祉コーディネーターの役割は、本人が持っている（持っていた）「力」に注目し、その「力」を発揮するためにどうすればよいのかということを事業所だけでなく本人や周囲を巻き込みながら支援する取組みである。

これまでの介護事業所は利用者への直接的な介護サービスを

提供することだけが仕事と考え、周囲への配慮は「そこまでする必要はない」と線を引き、関わりに積極的ではなかった。しかし本人の「力」を発揮するには「できない部分」を補完するだけの介護サービスだけではなく、その人のこれまでの暮らしぶりや社会とのつながり、人生観や価値観の生活全体を捉えて、すべてに「かかわる」ことが継続した生活を支える上でとても大切な要素なのである。本人の望む「これまでの暮らしを継続する」ためには、本人の思いや心配してくれる家族や周囲の人の思いをくみ取り、その思いを周囲に伝える「代弁機能」と、その思いを具体的な行動につなげるための「調整機能」が必要である。

一人ひとりを支える姿勢が結果として地域を面として支えることにつながるものであり、こうした介護のあり方を変えていく地域福祉コーディネーターの活動が、利用者本人を取り巻く周

困との関係づくりを通じて地域の介護拠点へと発展する。

### 1. 地域拠点及び地域福祉コーディネーターの有すべき機能

全国で先駆的に取組んでいる地域からは、それぞれの地域の背景や環境が違うものの、地域の拠点としての役割を担う機能がいくつか見えてきた。先駆的実践例も交え「地域拠点・役割・機能」として9のポイントを整理した。

#### ① 24時間365日の相談機能

拠点には、24時間365日の相談窓口の開設が必要である。だれでも、いつでも身近に相談できる場所と人の存在である。相談窓口では、24時間365日の対応が求められるが、応対する地域福祉コーディネーターは、出会いの段階でスクリーニングが求められる。この場合のスクリーニングは「ふり分け」という意味だけにとどまらない。相談者からの相

談内容を、1つだけの単純な問題、複数の複雑な問題、緊急対応が必要な問題といったように内容を整理することである。もちろん、面接の際に、インタビュー面接としての面接技術や信頼関係の構築等は言うまでもない。

相談窓口には「○○相談所」や「介護何でも相談」など看板やノボリをだして「相談窓口がここにありますよ」と表明している相談窓口もある。

拠点となる事業所においては「○○相談所」という看板はあるが、それだけではなく、外からの相談を受けやすいように周囲との関係づくりや配慮を日頃から行っていた。

また、相談窓口は相談が来るのを待つだけではなく、出向くこともできる。サロンに参加して移動相談窓口を開設することもできれば、日頃の地域の人たちとの何気ない会話や愚痴の中から地域の課題を発掘することもできる。そのことを地域住民

と一緒に考えることでさらに地域との信頼関係が増し、相談窓口としての機能が深まるケースもある。

相談機能は、相談窓口の看板を掲げることが重要ではなく、地域の人たちが発している言葉から、何が課題となっているのか掘り起こす力・発見する力を持つ窓口であることが重要である。

#### ② 地域へ参加・活動するための

##### 「場」（居場所・機会）機能

地域の高齢者には、介護サービスとは関係ない、いつでも気軽にふらっと立ち寄れる「場」やみんなが集まる「居場所」がある。ここでは、世間話や困りごと、周囲の情報などが何気なく話されている。そして「○○さんが病氣した」「△△さんが困っている」などの会話から、

親しい誰かが声をかけたり、手助けしたり、なんとなくその人を気にかけて、支えるつながりがある。しかし、これらの活動は、

自然に、自主的に集っている場合も多いことから、専門職がかわることで、今ある地域の場やつながりを壊さない関わりをしないよう心がけなければいけない。

一方で、地域では孤立した高齢者や、介護や認知症になって出かけることができなくなった高齢者も多い。

地域での暮らしの継続ではどのような形であれ、自宅以外の場や地域での居場所へ赴き、つながることは、とても大切な要素である。

自治体や事業所によっては利用者も含めた地域の住民へ参加や活動をする「場」や、参加のきっかけの提供を意図的に行って、地域の拠点としての役割を果たしているいくつかの例を紹介しよう。

○気兼ねなくふらっと立ち寄れる「場」づくり

熊本県山鹿市では「地域の縁側事業」において、高齢者を中



## 連載

### 心地よい関係性のバランス

第13回 井戸の中の主役と大海の脇役

心に地域のどなたでもいつでも立ち寄ることができる「場」を小規模多機能型居宅介護事業所に隣接して配置している。ここは高齢者だけでなく、地域の人が行きたくなる「場」づくりの工夫を行うことで、閉じこもりがちな高齢者もその場に出てきたり、周囲がお誘いする中で、高齢者や住民同士が新たな関係を作り出す場となっている。

#### ○地域活動の拠点づくり

福岡県大牟田市では高齢者をはじめとする地域住民が、住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して生活を営むことができるように、日常生活圏域を小学校区に設定し「ほっと安心ネットワーク」を形成することで、住民が歩いていける場所に地域交流スペースを配置して様々な活動を行っている。

そして、地域住民の活動や交流スペースの活用を促すために、ただ箱モノを整備するだけではなく、活動の支援や活性化

を促すための黒子として小規模多機能型居宅介護事業所や、認知症コーデイネーターなど人的資源の配置や教育を行っており、ハード面とソフト面の両面から支援を行っている。

#### ○多世代を巻き込んだ「場」づくり

新潟県長岡市では高齢者だけを対象とするだけではなく、様々な人が出入りする取組みを行っている。それは男性だけの料理教室や、事業所に併設した居酒屋、子育てサロンなどである。そしてその交流を通して、地域の高齢者と関わることができ、今ご近所で起こっていることや、課題を地域の住民が知ることができるのである。そしてそのことは高齢者の生活を支える情報源となり、地域の課題を多世代の人たちとともに解決するきっかけとなっている。その結果、住みやすい地域へと変化する好循環を生み出すことを目指している。(次号に続く)

全国各地で活躍する人たちと一緒に仕事をしていると、自分に急に自信がなくなることがある。もちろん、普段から自信満々なわけではないのだが、地元で仕事をしていると、それなりに立場や経験やいろいろなることが積み重なって、自信あり気になるまわねばならなくなる。自分を信じるしかない場面もあり、知らず知らずのうちに自信をもつて発言することが増えていく。そんな日々を送っているなかで、自分よりずっと知識も経験も豊富な人たちに出会うと、かなりショックを受ける。「ああ、自分なんてダメだ」「まだまだだ」と、ぐうの音も出ないくらい叩きのめされることもある。そんな時、頭に浮かぶのは「井の中の蛙」の図。もちろんカエルの顔は自分の顔だ。

こんな落ち込むのならば、大海を見るべきではなかったのではないか、などと考えることもある。すっかり落ち込んで、地元に戻ると、それでもいつものように自分を頼りにしてくれる人たちはたくさんいる。大海で仕入れてきた情報を待つ人たちもいる。自分も知らず知らずのうちにステップアップしていることに気づくこともある。「井の中の蛙大海を知るの巻」という具合だろうか。

しかし、大海を知ってしまったとそれなりに悩みも深くなる。今まで、これがスタンダードだと信じてきた実態が、ずいぶん時代遅れのように感じるようになる。こんな現状で満足してはいけない。もっともつとすばらしい実践をしている地域があるのだ。焦る私は、急にいろいろなことを始める。今まで正しいと思ってきた支援技術も、思

想性も、なんだか急に間違いの  
ような気になって、知りたての  
知識をかざして突っ走る。が、  
しかし、すぐに気づく。後ろを  
見ると誰もいない。また、一人  
で空回りだ。

小さな井戸のまわりを見回し  
て冷静に考える。ここには、こ  
この精いっぱい現状がある。  
私もこの精いっぱい現状の  
中で、一步一步進んできたのだ。  
そしてこれからも一步一步進む  
しかない。それは、決して諦め  
ではない。ここでは無理だと諦  
めたのではなくて、一足飛びに  
はいかないということだ。いか  
なる場合でも積み上げていくし  
かないのだ。

### 『井の中の蛙、大海を知る』

障害のある方にはその方自身  
の、家族には家族の、支援者に  
は支援者の、そして地域には地  
域の道のりがあるような気がす  
る。一見間違いのような気がし  
ても、そこを通過しなければ、  
その先にはたどり着けない。そ

んなことがたくさんある。「私  
の経験では、そのやり方ではや  
がてうまくいかなくなりませ  
よ」とアドバイスしたところで、  
その人に確信がなければ、その  
やり方を変えることはないだろ  
う。遠回りのような気もするが、  
それが一番の近道であることも  
ある。だからといって、取り返  
しのつかない間違いに進もうと  
している場合は、誰かが必死で  
水先案内をすることも大切だ。  
井の中の蛙は、井の中で主役を  
はってがんばるしかないのだ。  
それが嫌で大海に出ていったと  
ころで、そこには脇役しか残っ  
ていない。けれど、井の中の蛙  
は大海を見なければ、井の中で  
正しいのか正しくないのか考え  
るヒントもないままに、みんな  
で溺れてしまうことになりかね  
ない。だからこそ、ときどき大  
海に出て行って、パンチをく  
らって帰ってくることにしてい  
る。それが、何かしらこの地域  
のためになるような気がするか  
らだ。

最近はときどき、ささやかだ  
と思っていた自分たちの地域の  
実践が、ほんの少しほかの地域  
の人に影響を与えられる場面も  
あるように感じてきた。それは  
それで脇役冥利に尽きるという  
ものだ。それぞれの井戸の水が、  
大きな海の中で混じり合い、そ  
の水がまたそれぞれの井戸の水  
と混じり合う。すてきなイメー  
ジだ。

そんなことを考えていたら、  
本当は大海なんてないのかもし  
れないと思えてきた。それぞれ  
の井戸がそれぞれに豊かになる  
ことがすなわち大海なのだ。

※この原稿は、Juntos（フン  
トス）CLC 発行の情報誌から  
の転載です。著者と発行者承諾の  
もと転載しています。

### 大友愛美（おおともよしみ）

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子  
です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的  
障害者入所施設では地域と施設をつなぐコ  
ミュニティワーカーのような仕事をし、その  
後は地域で生きる人たちを支える仕事を  
しました。どちらの現場でも自閉症の人た  
ちとの出会いが多く、たくさん悩み、たく  
さん学びました。

最近では、共生社会の実現を目指すNP  
O法人での仕事や、福祉の担い手を育てる  
場（学校や研修）での仕事をしつつ、自閉  
症など地域で生きにくい状況を抱えた人た  
ちの相談や支援の仕事もしています。他の  
多くの人と違っていても排除しない、され  
ない社会の構成員になるためには、学ばだ  
けではなく、いろいろな人と一緒に暮らす  
練習が必要なのかもしれないな…、と感じ  
ている今日この頃です。

### 『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン』

〈1, 600円＋税 絶賛販売中〉

※お求めになりたい方は、当法人まで  
ご連絡ください。



## 起業・就労・支援の間で…

「制度外福祉サービス普及への取り組み」

(「コミュニケーションワークス 理事長 筒井啓介」)

(前回の続きです) 千葉県の研究会で提言をした、①制度外

福祉サービスの普及、②立ち上げの支援、を実践に移すために設立した「NPO法人ブレイムの星数支援センター」。最初の数年間は千葉県との協働でいくつかの事業を展開しました。

まずは、制度外福祉サービスの普及活動です。制度内福祉サービス(介護保険や障害者自立支援サービスなど)はよく知られているところですが、それ

以外の制度の枠を超えた「制度外福祉サービス」の存在そのものを知らない方もたくさんいらっしゃいます。そこで私たちが千葉県内のあちこちに出向き、既に制度外福祉サービスを実践している団体の事例紹介を中心に、制度外福祉サービスの考え方や必要性、さらには具体的な内容までを伝えていくことを繰

そ、事前にしつかりと事業計画や資金計画を立てることがとても大切になります。私たちの起業講座では、事業計画や資金計画を立てること以外にも、先輩

起業家による事例紹介や人材に関すること、法人格、資金調達など事業運営や経営に必要な一通りの知識が得られるカリキュラムでした。そして最終日には受講者のそれぞれの事業プランを発表し合い、講師からアドバイスをもらう時間も設けました。この起業講座は毎年開講していましたが、この講座がきっかけで起業され、現在も千葉県内で活躍されている起業家(事業所)もたくさんいらっしゃいます。

さらにこれらのことを後方支援してくださったのが千葉県独自の助成金制度です。当時としてはとても画期的で、制度外福祉サービスを立ち上げる事業者(団体)に対して、立ち上げに必要な経費の一部を助成するという制度でした。審査会には私

たちの法人メンバーも立ち会わせて頂き、持続可能な事業プランであるか、サービスの質は確保できているかなども議論させて頂き、結果、多くの制度外福祉サービスの立ち上げの助成がされました。今振り返ってみても、この助成金制度があったことはとても大きな意味があったと思っています。

上述の取り組みは3、4年ほど続きましたが、千葉県の予算縮小や法人内の体制変更に伴い、残念ながら現在はこれらの事業は行っていない。さらに数年後には、法人自体も発展的解消をし、その次の流れの中で「一般社団法人ひと・くらしサポートネットちば」が新たに設立をされ、私自身も現在はここでの運営委員として携わらせて頂いています。時の流れの中で法人や形態は変わっていますが、当時千葉県が掲げた「誰もがありのままでの暮らしが、領域で暮らし続けることができるために」という根本的な想いは



## Natural Café+Shop hanahaco

営業日：11時～16時（定休日：火曜）

住 所：木更津市矢那 1879-1

電 話：0438-38-4368

メール：info@npo-cw.net

Facebook：https://www.facebook.com/hanahaco.k/

みんな今も変わっていません。  
私もその想いを1つでも2つで  
も形にできるように、尽力した  
いと思っています。

## Information 福祉・介護・まちづくり等のイベント情報欄

11月10日までに、編集部へ届いた情報です。詳細は、各情報の連絡先にお問い合わせください。また、情報欄への掲載を希望する方は、編集部までご連絡ください。

### 《ノーマライゼーション学校支援事業》

日時：2017年1月28日（土）

会場：千葉県教育会館 203 会議室

内容：「誰にでもできる支援へ向けて  
—小学校通級指導教室より」  
「誰にでもできる支援へ向けて  
—暮らしの中から」

定員：100名 参加費：各1,000円（資料代）

問合せ：ちば MD エコネット事務局  
047-426-8825

### 《穂垂るの会》

介護している方々が集まって日々の苦労  
話等を気軽に本音で話し合う会です。

日時：2016年12月8日（木）

13:30～15:30

会場：ふれあいセンター 2階 創作室

経費：200円（通信費ほか）

主催・連絡先：穂垂るの会・井上

(090-7171-1701)

### 《第20回 街 CAFE さくら》

【12月の催し物】

「クリスマス会」

日時：2016年12月11日（日）

13:00～16:00

場所：東金市東金 1060-6（就労移行支  
援事業所 SUNFLOWER 1F 内）

参加費：100円（お茶代）

問い合わせ先：社会福祉法人ゆりの木会内  
認知症カフェ担当 平賀・笠原(0475-50-8111)

### 《司法と福祉をつないで》

日時：2016年12月13・14日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

内容：少年たちの帰る場所

～保護司とロージーハウスの取り組みから～

講師：大沼えり子 他

定員：300名 参加費：無料

問い合わせ先：東京都地域定着支援  
センター

(03-5927-8231)

《吹く詩の宴 2016》

日時：2016年12月23日（金）

10：00～17：00

会場：木更津市民会館 中ホール

参加費：無料

プログラム：こわれものの祭典

宴10周年記念パフォーマンス 他

主催：吹く詩の宴実行委員会

問合せ先：0438-38-4368（担当・初芝）

《タイ式セルフケアワークショップ@木更津 hanahaco》

日時：2016年12月8日（木）

10：00～11：30

会場：Natural Cafe+Shop hanahaco

（木更津市矢那 1879-1）

参加費：2000円（ドリンク付）

持ち物：座布団、バスタオル

申込み：電話 0438-38-4368

メール info@npo-cw.net

《協働まちづくり交流会@木更津》

概要：事例発表の後、発表事例ごとの班をつくり、発表事例についての意見交換を行います。

日時：2016年11月30日（水）

9：45～12：00・13：30～16：30

会場：イオンモール木更津2階イオンホール

テーマ：午前「子どもとコミュニティ」

午後「福祉とコミュニティ」

申込先 npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp

《コミュニティワーカー実践講座・君津》

日程：第1回 2016年12月14日（水）

第2回 2017年2月1日（水）

第3回 2017年2月1日（水）

内容：地域との関わり視点、ライフサポートプランを学ぼう、チームケア

会場：君津市健康福祉センターふれあい館

参加費：無料

主催・連絡先：ちば地域密着ケア協議会

043-244-2601

《キャリアアップ実践講座・東金》

日程：第1回 2016年12月7日（水）

第2回 2017年1月13日（金）

内容：「リーダーシップ」

「チームワーク」

会場：東金市ふれあいセンター（視聴覚室）

定員：30名

参加費：無料

主催・連絡先：ちば地域密着ケア協議会

043-244-2601

《コミュニティワーカー実践講座・八街》

日程：第1回 2017年2月7日（火）

第2回 2017年2月8日（水）

第3回 2017年2月8日（水）

内容：地域との関わり視点、ライフサポートプランを学ぼう、チームケア

会場：八街市役所第1庁舎3階第1会議室

参加費：無料

主催・連絡先：ちば地域密着ケア協議会

043-244-2601

発行元：ふれーず編集部

千葉県東金市東金 425-2（鶴嶺の家内）

TEL：0475-53-3630

編集責任者：宮下・太齋

発行部数：500部

♪ 2年かけて準備運動をしてきた割には…なかなか…どのように育てていくか！いつもその場しのぎ…でも確実に前に進んでいる気もする。今回から表紙イラストを提供頂くのは、「amor amigo」さん。次回以降で紹介します（To）